

■六甲ミーツ・アート 芸術散歩2019開催概要

現代アートの魅力と共に、六甲山をより多くのおみなさまに知っていただくことを目指して、2010年に始まりました。これまでに通算 300 組を超えるアーティストが出展し、毎年、たくさんの方々々に斬新な作品や、作品によって変化する風景を楽しんでいただきました。

10 回目の節目の開催となる本年もアートと出会う発見や驚きとともに“新しい六甲山の魅力”をお伝えできればと思っています。

六甲山は明治時代、居留外国人によってレジャーの山として開発が始まりました。その素晴らしい眺望や豊かな自然は、時代が移り変わった今もなお多くの人々に愛され続けています。

アートファンの方はもちろん、観光やレジャーで六甲山を訪れるみなさまにも自然の移ろいを五感で感じていただきながら、豊かな時間を過ごしていただけるよう、また、本展がアートと六甲山のコラボレーションを通してさまざまな出会いの場になることを願っています。

【会 期】

9月13日(金)～11月24日(日)※会期中無休

【開催時間】

10時～17時 ※会場により営業時間が異なります。
17時以降も鑑賞できる作品があります。

【会 場 (全11会場)】

六甲ガーデンテラス、自然体感展望台 六甲枝垂れ
六甲山カンツリーハウス、六甲高山植物園、
六甲オルゴールミュージアム、六甲ケーブル、
天覧台、六甲有馬ロープウェー(六甲山頂駅)、
風の教会(グランドホテル 六甲スカイヴィラ会場含む)、
記念碑台(六甲山ビジターセンター)

[プラス会場]TENRAN CAFE

※「TENRAN CAFE」の見学は飲食利用が必要です。

【料 金】

5つの有料会場をお得に巡ることができる「鑑賞チケット」を発売

種類	販売期間	鑑賞チケット代金	鑑賞チケット代金 + 乗車券付
前売券	2019年7月1日(月)～9月12日(木)	大人(1,900円) / 小人(950円)	大人(3,250円) / 小児(1,630円)
当日券	2019年9月13日(金)～11月24日(日)	大人(2,200円) / 小人(1,100円)	—

※大人(中学生以上)、小人(4歳から小学生)、小児(6歳以上12歳未満)

【チケット特典】

- ・有料会場(自然体感展望台 六甲枝垂れ、六甲山カンツリーハウス、六甲高山植物園、六甲オルゴールミュージアム、風の教会)に、会期中各1回ずつ入場いただけます。
- ・各施設に通常入場した場合大人3,070円、小人1,830円になるため大変お得なチケットです。
※消費税増税の場合は料金変更の場合があります
- ・入場当日は再入場可能です。また、会期中であれば日を分けて利用いただけます。

【鑑賞チケット+乗車券付】

- ・鑑賞チケットと六甲ケーブル往復、六甲山上バス2日間乗り放題(大人1,350円/小児680円)がセットになったチケットです。

【前売券<販売場所>】

- ①e+(イープラス)、②チケットぴあ、③JTB レジャーチケット、④JTB 電子チケット(PassMe!)、⑤じゃらん、⑥asoview!
- ⑦六甲ケーブル六甲山上駅構内「ショップ 737 六甲遊山案内処」⑧六甲ガーデンテラス内「リトルホルティ」
- ⑨自然体感展望台 六甲枝垂れ

【当日券<販売場所>】

- ①有料会場の入場窓口、②六甲ケーブル六甲山上駅構内「ショップ 737 六甲遊山案内処」、
- ③六甲ミーツ・アートオフィシャルショップ「リトルホルティ」

【主 催】

六甲山観株式会社、阪神電気鉄道株式会社

【総合ディレクター／キュレーター】

高見澤清隆 六甲山観光株式会社 シニアディレクター



植松琢磨「world tree II」場所:六甲ガーデンテラス イラスト:鈴木なるみ

■ 出展アーティスト、展示作品について

「六甲ミーツ・アート 芸術散歩2019」では、招待アーティストと、公募によって選出されたアーティストの作品を展示します。出展アーティストは「六甲ミーツ・アート 芸術散歩2019」の開催に合わせて、作品制作を行います。招待アーティストと公募アーティストを合わせ、42組の作品を展示する予定です。

《招待アーティスト》 全27組

あきのただのぶ いちかわたいら いとうぞん いわきのりこ うまつたくま うのあきら えがしらまこと えのまちゅう おおきま
浅野忠信、市川平、伊藤存、岩城典子、植松琢磨、宇野亜喜良、江頭誠、榎忠、大崎のぶゆき、
おび かざまてんしん じゃーまんすーぶれつすえあらいんず くにしきまゆり くりまゆみ こいでな おまき きがわたかひろ
OBI、風間天心 (GermanSuplexAirlines)、國久真有、栗真由美、小出ナオキ、佐川好弘、
しょういんちゅうがっこう こうとうがっこうびじゅつぶ すずき だいとうまさや たかはしきょうた はた まりの、ヒロセガイ、藤江竜太郎、
ふしみまさゆき ふじもと ゆき おあすたりすく あすとらなびげーしょん ほんだやまと まえだしんじ じゃーまんすーぶれつすえあらいんず やまぐちのりこ
伏見雅之、藤本由紀夫 *astronavigation、本多大和、前田真治 (GermanSuplexAirlines)、山口典子

《公募アーティスト》 全15組

いわたにゆきこ おおいしま お おおのこうじ おおはたゆきえ かねこみ やかのうてつろう くらだよしえ すぎたにかずたか なかもりだいき
岩谷雪子、大石麻央、大野公士、大畑幸恵、金子未弥、狩野哲郎、黒田恵枝、杉谷一考、中森大樹、
のむらゆか まえだこうへい よしひろ みかみ はじめよしだ もりけいた よしむらたいち わかたゆうすけ
野村由香、前田耕平、YOSHIHIRO MIKAMI + HAJIME YOSHIDA、盛圭太、葭村太一、若田勇輔
(2019年8月29日現在)

■ 公募作品の最終審査(2次審査)、賞の選出について

公募入選作品は作品の完成後、2019年9月10日(火)に改めて審査員が2次審査を行い、「六甲ミーツ・アート 公募大賞」グランプリ、準グランプリ、奨励賞を決定し、翌9月11日(水)に開催するレセプションで発表し表彰式を行います。受賞者には副賞として賞金の授与も行います。

◆「六甲ミーツ・アート 公募大賞」

- ・グランプリ 1名 賞金100万円
- ・準グランプリ 1名 賞金 30万円
- ・奨励賞 1名 賞金 10万円

◆「行政・企業・団体が選出する賞」

- ・ 神戸市長賞 1組 賞金10万円(対象:公募入選作品)、新たに作品の発表を行う場の提供
- ・ 兵庫宅建ハトマーク賞 1組 賞金10万円(対象:公募入選作品) 提供:一般社団法人 兵庫県宅地建物取引業協会
- ・ FM802 賞 1組 (対象:公募入選作品) 「UNKNOWN ASIA」プロデューサー谷口純弘が来年の「UNKNOWN ASIA 2020」ゲストアーティストを選出
- ・ 主催者特別賞 1組 賞金10万円(対象:招待アーティストの作品)



受賞時の様子

■ 来場者の投票で決定する賞

※来場者による投票は10月27日(日)まで行います。

◆「六甲ミーツ・アート オーディエンス大賞」

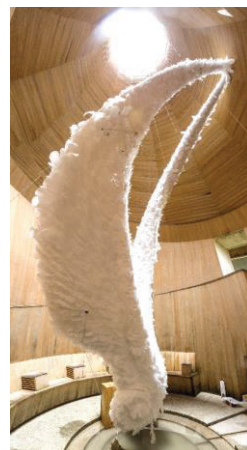
「六甲ミーツ・アート オーディエンス大賞」は、招待アーティストを含む全出展作品を対象に、来場者の投票で以下の賞を選出します。発表は11月1日(金)に行います。

- ・グランプリ 1名(賞金50万円)
- ・準グランプリ 1名(賞金20万円)
- ・第3位 1名(賞金10万円) 提供:一般社団法人 兵庫県宅地建物取引業協会

2018年の六甲ミーツ・アート オーディエンス大賞 グランプリ作品

松蔭中学校・高等学校 美術部《それゆけ! てんしろうくん》

2018年 自然体感展望台 六甲枝垂れ



招待アーティスト



1973年 神奈川県生まれ

浅野忠信 Tadanobu Asano

1 1990年に松岡錠司監督の「バタアシ金魚」でスクリーンデビュー。セルゲイ・ボドロフ監督「MONGOL」は第80回(2008)米アカデミー賞で外国語映画賞にノミネート、2010年には根岸吉太郎監督「ヴィヨンの妻〜桜桃とタンポポ〜」、木村大作監督「劔岳 点の記」にて第33回日本アカデミー賞優秀主演男優賞をダブル受賞。また、熊切和嘉監督「私の男」では、第36回モスクワ国際映画祭でコンペティション部門最優秀男優賞を受賞。俳優業のみならず、音楽家としても活動し、「SODA!」でバンド活動や、DJも行方。2019年「TADANOBU ASANO 3634 浅野忠信展」をワタリウム美術館にて開催。



1965年 東京都生まれ。特殊照明家・元彫刻家。 1991年 武蔵野美術大学大学院修了。

市川平 Taira ICHIKAWA

1 1991年第2回キリンコンテンポラリーアワード受賞、1993年第3回ジャパン・アート・スカラシップ受賞。1988年「ドームのないプラネタリウム」を制作、それ以降 現代的なモチーフを選び彫刻でありながら様々な素材、要素を取り入れ、いわゆるSF的な物語性を感じさせる作品群を作り続けている。また「ドームツアープロジェクト」「マジカルミキサープロジェクト」「シークレットガーデンプロジェクト」などの目標達成型アートワークを手掛ける。近年は特殊照明家として数多くの現代作家達とのコラボレーションを実現させている。



伊藤存 Zou ITO

刺繍作品をはじめとして、アニメーションや小さな立体制作などメディアにとらわれない制作を行なっている。また、近年は自然物などを加工することから始める作品制作にも積極的に取り組んでいる。



岩城典子

Noriko
IWAKI

頭の天窓を開きたいという思いで、高さ3mほどの巨大オブジェから小さな箱庭作品まで制作。野外展示やモバイルと立体造形で構成されるインスタレーション展示を行う。展示空間では、ダンサーや音楽家とのパフォーマンスイベントやワークショップなどを開催。帽子やジュエリー、服飾ブランドとのコラボアイテムの制作なども積極的に行っている。

1985年 愛知県生まれ。大阪芸術大学美術学科卒業。大阪府在住。



植松 琢磨

Takuma
UEMATSU

2001年以降、国内外の美術館やギャラリーで作品を発表。自然科学や哲学における興味から、生命や社会への新たな視点をさまざまなメディアと手法で表現する。

1977年 金沢市生まれ。 2000年 関西大学卒業。



photo by Sayuki Inoue

宇野 亞喜良

Aquirax
UNO

日本を代表するイラストレーター・グラフィックデザイナーの一人。耽美的かつ装飾的で、毒や刺激的な要素も混ぜ合わせながら、捉えどころのない表情の少女や幻想的な世界を描く。50年代から鬼才イラストレーターとして活躍し、寺山修司演劇作品の舞台美術監督、芸術監督も務めるなど、幅広く活動している。2017年アーティストグッズブランド「QXQX」を立ち上げる。

1934年 名古屋市生まれ、東京都在住 1952年 名古屋市立工芸高等学校図案科卒業



江頭 誠

Makoto
EGASHIRA

戦後の日本で独自に普及してきた花柄の毛布を主な作品素材として用いて、大型の立体作品、空間性を活かしたインスタレーション作品を発表する。発砲スチロール製霊柩車を毛布で装飾した「神宮寺宮型八棟造」が第18回岡本太郎現代芸術賞で特別賞を受賞。空間内に毛布で洋式トイレを造った「お花畑」は SICF17 でグランプリを受賞。主な展覧会として、「BIWAKO ビエンナーレ 2018」(近江八幡市街)「六本木アートナイト 2017 (六本木ヒルズ、2017) ほか。

1986年 三重県生まれ、東京都在住

2011年 多摩美術大学美術学部彫刻学科 卒業

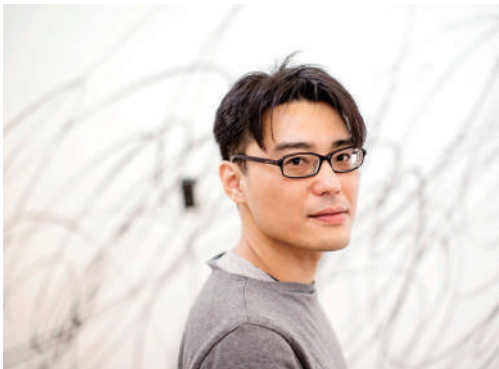


榎 忠

Chu
ENOKI

1 1970～76年「JAPAN KOBE ZERO」での活動を経た後、街中での会場探しからはじめ、自ら展覧会全体を作り上げることを行ってきた。型破りなパフォーマンスや、銃や大砲を扱った作品、金属の廃材に新しい生命を吹き込んだ作品など、独自の世界を展開。美術館やギャラリーに限ることなく、現在も神戸を拠点に活動が続いている。

1944年 香川県善通寺生まれ、神戸市在住



大崎のぶゆき Nobuyuki OSAKI

自身の存在を軸にする思考から世界を知覚するべく、これまで独自の方法である描かれた絵が溶けていく作品や、壁紙の柄や線のイメージなどがドロドロと流れ出していく作品など、リアリティについて問いかけ、不確かさや曖昧な感覚を視覚化する作品を発表。最近の発表では、「イメージが消失する」という表現がもたらす感覚や思考をより深め、記憶や時間などのモチーフやイメージの存在について考察する作品を展開している。する作品を発表。最近の発表では、「イメージが消失する」という表現がもたらす感覚や思考をより深め、記憶や時間などのモチーフやイメージの存在について考察する作品を展開している。

1975年 大阪生まれ、愛知および大阪在住

2000年 京都市立芸術大学大学院美術研究科
絵画専攻版画修了。



OBI

建築家による場・仕組みづくりと、美術作家による内側の見えない/見えにくい素材を題材にした表現活動を併せ持つことで、社会課題を題材にしたプロジェクトにおいて、会話・対話を軸にして入口から出口までを創り出している。

2017年結成。



風間天心 GermanSuplexAirlines TengshingKAZAMA

美術家、僧侶。2010年、大本山永平寺での修行を終え、武蔵野美術大学パリ賞によりパリ市「Cité Internationale des Arts」に滞在。宗教と芸術の相互作用を求め、国内外で多様な活動が続いている。あくまで社会の中で日常では無い動きを自ら実践し、それで得た成果にアーティストなりの理屈を添付して作品化する傾向がある。作品はプロセスを説明するためのアイキャッチという側面が強い。そのような動きで得たものを経済活動に利用してみようと始めたのが German Suplex Airlines というチームである。

— GermanSuplexAirlines —

前田 真治、風間天心、海野良太、太湯雅晴、山田啓貴、磯部光太郎

<http://www.tengshing-k.com>

1979年 北海道東川町出身、札幌市在住
武蔵野美術大学 大学院修了卒業

協力：株式会社齊藤社寺設計室
プロフィール写真：Photo by Lukasz Gaslorowski



國久真有 *Mayu KUNIHISA*

私 は身体が持つ円を用いて作品を制作しています。
六甲山で円を描き、自然のなかで人間の持つ円はどれだけ小さなものか見てみたい。
キャンバスという工業製品の中に現す円は社会の中で暮らすことの比喩のようです。地球上で人間のみが出来る許された文化行為なのかなと思っています。文化として確認出来ることもです。

1983年 大阪府生まれ、神戸市在住
2015年 神戸芸術工科大学大学院芸術工学研究科 芸術工学専攻博士後期課程満期終了



栗真由美 *Mayumi KURI*

金 属を素材とした作品制作からスタートし、近年は明かりや電機などを用いた立体作品制作を行う。なかでも、地域に赴いて巡り収集した画像や素材を用いて制作するインスタレーション作品は、自身の継続的なプロジェクトとして取り組んでいる。

1973年 愛知県生まれ、東京都在住。
東京学芸大学大学院美術教育工芸科修了



小出ナオキ *Naoki KOIDE*

小 出ナオキは主にFRP、セラミック、木などを用い、愛らしくもどこか不気味で不思議な立体作品で自身とその家族を作品化してきました。そして子が生まれた頃、主な素材をFRPからセラミックに変え、その心を「子を持つ前の父親に産まれた後の生活が想像できないような、そして産まれて初めてその意味がわかる感じと似ています」と語ります。小出の作品には、詩情にあふれ自伝的でありながら鑑賞者の記憶を本質的に刺激するような魅力もっています。



佐川好弘 *Takahiro SAGAWA*

漫 画の表現にある、遠近に飛び出す文字を造形に取り入れ、感情やコミュニケーションにまつわる事象を、立体造形やパフォーマンスなど、様々な表現で発表する。

1983年 大阪府生まれ、大阪府在住、
2005年 大阪芸術短期大学部専攻科修了



松蔭中学校・高等学校美術部 Shoin Junior and Senior High School Art Club

松 蔭中学校・高等学校は神戸にある由緒正しい女子校です。放課後、美術室にはちょっと変わったメンバーが集まってきます。得体のしれない笑いのツポにはまり抜け出せていない者、試合のスケジュールとにらめっこしている運動部員、目に留まるものすべてに素朴な疑問を投げかけ続ける者……。そんな彼女たちから生れいづる混沌エネルギーを六甲山に召喚し実体化します！生徒たちに混じって暗躍するのは、美術部顧問・宮崎宏康。



鈴木なるみ Narumi SUZUKI

空 想世界の中で繰り広げられる人々と生きものの織りなす日常を、イラストレーションを用いて俯瞰の構図で描いています。人々と生きものの振る舞いが奇妙で可愛らしくあるように、また、空想の世界が素敵な空間であることを願い、制作しています。自身のイラストレーションを鑑賞者がご覧になり、少しでもほっこりできましたら幸いです。

1994年 大阪府生まれ、大阪府在住。

2019年 大阪教育大学大学院芸術文化専攻造形表現分野修了



大東真也 Masaya DAITO

私 はガラスに熱を与えると変形するという性質と、重力を利用してガラス瓶の形を変形させて作品制作を行っている。変形させる際に窯を使用している。

人の体のフォルムに例えられたりするが無機質な工業製品のガラス瓶が、窯という第三者の介入することの出来ない宙空間で自然の摂理に従って偶然的に変形することにより、生命が宿ったかのように有機的で生命感を感じる姿となって生まれ変わる。もう元々の使用方法では使用することの出来ないまでに違う物へ生まれ変わらすことによって、新しい視点を表現しています。

1995年 滋賀生まれ

2018年 京都精華大学 芸術学部 造形学科 立体造形コース卒業

2019年 京都精華大学大学院博士前期課程芸術研究科立体領域在学中



高橋匡太 Kyota TAKAHASHI

光 や映像によるパブリックプロジェクション、インスタレーション、パフォーマンス公演など幅広く国内外で活動を行っている。東京駅100周年記念ライトアップ、京都・二条城、十和田市現代美術館など光により建築空間をイメージに取り込みダイナミックな作品を創り出す。多くの人とともに作る大規模な参加型アートプロジェクトも数多く手がけている。

1970年 京都府生まれ

1995年 京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了



秦まりの

Marino HATA

大 学在学中から版画シルクスクリーンを学ぶ。
自作の物語を元に、シルクスクリーンによる平面作品とぬいぐるみ状の立体作品を組み合わせたカラフルでPOPなインスタレーション作品を制作。

1981 福岡生まれ、大阪育ち 大阪在住 2004 京都精華大学 芸術学部造形学科版画専攻 卒業
2002 嵯峨美短期大学版画学科 卒業



ヒロセガイ

Guy HIROSE

1 994年よりギャラリーで作品を発表。その後、クラブやライブハウスなど、鑑賞者より活発に対話できる場所での展示を試みるようになる。
手掛ける立体作品はあくまで制作の一部で、自身を取り巻く環境や偶然出会った鑑賞者も含めたすべてを「作品」と捉えている。今回は、人とアートを食を介して繋ぐ場として運営しているネパールレストラン「Art&Nepal」での取り組みを発展的に六甲山上で展開し、様々なアーティストからのメッセージを発信する。



藤江竜太郎

Ryutaro FUJIE

日 本の伝統的な表現や文化を意識し、環境自体を素材として作品にしてしまう活動を行ってきた。近年は子供の頃から没頭してきたアウトドアをテーマに、自然との対話を目的とした装置としての野外インスタレーションの制作や悠々として繊細な自然の変化を感じるきっかけとなる活動を愉しんでいる。

1978年広島県生まれ、広島
2004年広島市立大学大学院芸術学研究科博士前期課程修了



伏見雅之

Masayuki FUSHIMI

2 010、2011年「自然体感展望台 六甲枝垂れ」(三分一博志氏設計)に光による演出を行う作品で、招待アーティストとして参加した。自然環境に配慮した新展望台の意図を生かし、LED照明によって有機的な光の演出を実現した。季節の移り変わりを表現したプログラムは、施設の利用者を光で包み込んで、六甲山の夜景とともに多くの方に楽しまれた。伏見氏は、光を通して日常空間や都市空間を彩り、生活を豊かにする表現のツールとして活動している。

神奈川県生まれ、神奈川県在住 1993年 東京藝術大学美術学部美術研究科修了



藤本由紀夫 ^{*astronavigation} YukioFujimoto

書 物自身が創造的なものであるばかりでなく、読書もまた創造的な行為である。読書とは、紙に書かれた文字を読むことだけではない。夜空の星の一つ一つを結びつけて星座を作り出すように、自然環境や自然現象から、人工的構築物からも私たちは様々な情報を読み取る能力を本能として持っている。六甲山には素晴らしい読書の環境がある。環境そのものが貴重な書物を収蔵する図書館と言えるだろう。その「図書館」で創造的な「読書」を試みる。今、私たちは新しい読書の楽しみを探求する。

1950年 名古屋生まれ、大阪在住

1975年 大阪芸術大学音楽学科音楽工学専攻卒



本多大和 Yamato HONDA

デジタルな遊びをつくる作家・クリエイター。プログラミングでつくるインсталレーション作品や、イラストレーション等、企画・意匠・技術に境界を持たない制作スタイルで活動中。「みため遊び」や「創作体験」をキーワードに、アートとエンタメの中間を探る体験型作品の制作を行う。2018年4月、クリエイティブプロダクション・面白法人カヤックから独立してフリーランスに。

1988年 東京都生まれ、東京都在住、 2011-2018年 面白法人カヤック 企画部 / 技術部



前田真治 GermanSuplexAirlines MAEDASHINJI

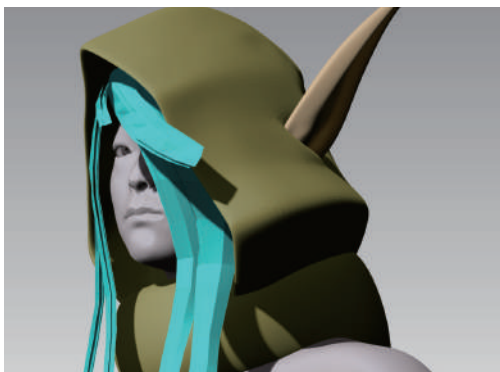
あくまで社会の中で日常では無い動きを自ら実践し、それで得た成果にアーティストなりの理屈を添付して作品化する傾向がある。作品はプロセスを説明するためのアイキャッチという側面が強い。そのような動きで得たものを経済活動に利用してみようと始めたのがGermanSuplexAirlinesというチームである。

-GermanSuplexAirlines -

メンバー：前田 真治、風間天心、海野良太、太湯雅晴、山田啓貴、磯部光太郎

1976年 生まれ 東京都・兵庫県(尼崎市)在住

英国ミドルセックス大学芸術学部中退



山口典子 Noriko YAMAGUCHI

幼いころ、わたしが見てたものは宝塚歌劇だった。そのためか、なにかを思うと出演者全員女性のミュージカル仕立てに思想が湧き上がってきていた。いつしか現実にもミュージカルを追い求め、たどり着いた場所が渋谷交差点である。苦手でありながらも憧れる人混みの中へ分け入り、私は消えてしまいたかったが、同時に誰かのためだけに生きていきたかった。いつもたくさんの人がいる。ただ1人、あなたに気がついて、振り向くんだ。目が合う瞬間、何を思うだろう。

1983年 神戸市生まれ 東京在住

2007年 京都市立芸術大学大学院絵画コース油画修了

京都造形芸術大学非常勤教師を経て、現在 Digital Artisan に所属

公募アーティスト



岩谷雪子 Yukiko WATANI

植物を採集し、乾燥させ、立体、映像、インスタレーション等の作品を作る。植物から感じたものをできるだけ損なわぬよう気をつけながら、彼らの魅力的な姿をアートとして再構成し、植物たちの声を聴く、或は彼らを感じるための場を作っている。

1958年 札幌市出身、高知市在住 武蔵野美術大学日本画科卒業



大石麻央 Mao OISHI

人は人を好きになるときにどこで判断するのか?という概念をテーマに、ニードルフェルトという手法で、マスクをかぶった人たちを作っている。最近は作品になったり、なってもらったりしている。ギャラリーや美術館だけでなく、動物園や電車内、古民家など様々な場所で展示を行う。羊毛を使ったグッズづくりやワークショップも行っている。

1986年 神奈川県出身、神奈川県在住 武蔵野美術大学大学院修了



大野公士 Kouji OHNO

私の表現には、「存在についての考察」と「死生観」という概念が通底しています。この二つの概念がどのように世界と関わりあっているかを検討し、分析しています。そのため、私は美術大学の他に医学大学でも解剖学を学び、この関係性を研究することを続けています。

1971年 東京都生まれ、アムステルダム在住 多摩美術大学大学院彫刻専攻修了



大畑幸恵

Yukie
OHATA

大 学で油絵を専攻し、出身地広島のカキ殻に覆われた海岸に触発され貝を作品に使用しています。貝は場所によって種類が異なり、環境・歴史などのストーリーは様々な連想を促します。海と人は古代から深く関係し、近代の海辺は変化の象徴的な場所といえるでしょう。私は貝殻を用いて海や人の営みをテーマに制作しています。

広島県出身、兵庫県在住 東京学芸大学大学院修了。



金子未弥

Miya
KANEKO

2 人々の場所に関する記憶から「都市の肖像」へと導くプロジェクトや作品制作を行っている。

1989年 横浜出身、横浜在住
多摩美術大学大学院 美術研究科博士後期課。



狩野哲郎

Tetsuro
KANO

既 製品や植物を組み合わせ、空間へのドローイングとしての新しい「風景」を造り出す。近年のインスタレーションでは、時に鳥という「他者の視点」をとりこみ、狩野の作品世界では、人間にとっての価値観や認識方法が宙づりにされ、普段、私達が意識することのない新たな知覚や複数的な世界の想像を促す。

1980年 宮城県出身、東京都在住 東京造形大学大学院修了



黒田恵枝

Yoshie
KURODA

使 われなくなった衣類を素材として、ぬいぐるみや人形、彫刻といった概念を横断する創作形態に取り組み、空想の生き物の立体シリーズ『もけもけもの』や、素材の衣類を用いたインスタレーションなどを発表している。その他ミュージックビデオへの作品提供等その活動は多岐にわたる。

1987年 福岡県出身、千葉県在住
多摩美術大学情報デザイン学科情報芸術コース



杉谷一考

Kazutaka
SUGITANI

私は自分自身の記憶、日々感じる様々な感情や想い等、精神の深部を陶で表現しています。なるべく道具を使わずに自分の手だけを使って、ダイレクトに素材に触れ、シンプルで親しみやすいフォルムと、鑑賞者に様々な物語を想起させるような表現を目指しています。



中森大樹

Daiki
NAKAMORI

プロダクトデザインと機械工学の経験をバックグラウンドに、光・動き・素材といった要素がもたらす知覚とテクノロジーが提供する新しい可能性を結びつけ、インスタレーションやプロトタイプを作製する。

1973年 愛知県生まれ、東京都在住
東京学芸大学大学院美術教育工芸科修了



野村由香

Yuka
NOMURA

現代の様々な困難な状況において、いかに人は生きることができるかということに関心を持って制作している。「生活」を重要な要素として捉え、繰り返しの日常の行為の中に生まれる変化と普遍性とを可視化する。個人の生命活動と大きな自然のつながりから、現代における生きる態度を制作を通して考察する。

1994年 岐阜県出身、京都府在住
京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修士課程修了



前田耕平

Kohei
MAEDA

人や自然、物事との関係や距離に興味を向け、自身の体験を手がかりに、これまで映像やパフォーマンスなど様々なアプローチによる探求の旅を続けている。近年の活動に、南方熊楠の哲学思想を追った「まんだらぼ」プロジェクトや、タイにナマズを探しに行く「パンガシアノドン ギガス」などがある。

1991年 和歌山県出身、京都府在住
京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻構想設計修了



YOSHIHIRO MIKAMI + HAJIME YOSHIDA

建 築家・吉田甫とプロダクトデザイナー・三上嘉啓によるアートプロジェクト。
ランドスケープ、住宅、商業施設の設計。ブランディング、コンセプトメイキング、プロダクトデザインなど、それぞれの領域でのクリエイション
を行いながらアートワーク制作を共同で行う。

2019年結成 三上嘉啓 神戸出身、大阪在住 吉田甫 富山出身、大阪在住



盛圭太 Keita MORI

2 011年より紙や壁の上に糸をグルーガンで張る独自の手法でドローイング制作を
行う。2017年、フランス初となるドローイングに特化したアートセンター、ドロー
イング・ラボのオープニング個展作家に選出される。近年の展覧会に、ヴォルフスブルグ
現代美術館(ヴォルフスブルグ、ドイツ)、国立新美術館(東京)などがある。

1981年 北海道出身、フランス・パリ在住
パリ第 XIII 大学大学院美術研究科先端芸術修了。



葭村太一 Taichi YOSHIMURA

モ ノを作るために壊し、新たに作り直し、また壊して姿が露わになる。たまたま自分
が作りたくて作っていたものは彫刻だった。ある特定の自然物の一部を切り取りそ
れを自らの手で立体に起こし、焦点を当てる角度を変化させた作品を制作している。

1986年 兵庫県出身、大阪府在住 大阪芸術大学卒業



若田勇輔 Yusuke WAKATA

土 地それぞれに内在する”捉えがたい概念”を具象化させる作品を制作し
ている。近年はニューヨーク・ベルリン・上海など国外を中心に、都市に
内在する記憶や問題に着目しながら作家活動を行なっている。

1995年 愛媛県出身、茨城県在住 東京藝術大学美術研究科デザイン専攻在籍